

兵庫消防

発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通1丁目6番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
通字 非 刊 加 事

消すまでは
出ない行かない
離れない

平成二四年度

日本消防協会定例表彰式

岸谷会長が特別功労章を受章!



岸谷会長特別功労章を受章!

平成二四年度日本消防協会定例表彰式が、二月二六日(火)午後一時より日本消防会館ニッショーホールにて盛大に開催されました。
国歌斉唱、消防殉職者に対する黙祷に続き、日本消防協会長の挨拶があり、受章者代表に表彰状が授与されました。その後、受章者代表謝辞があり、万歳三唱により閉会しました。



秋本日本消防協会会長あいさつ

特別表彰「まつら」 一〇団

特別功労章 一〇名

優良消防団(表彰旗) 四〇団

優良消防団(竿頭綬) 八八団

功績章 九三四名

精績章 二、二二七名

勤続章 七、一五一名

優良婦人消防隊(表彰旗) 一五隊

優良婦人消防隊(功績章) 二〇名

都道府県消防協会等 六名

役員員永年勤続者表彰 六名

なお、本県の受章者・団体は次のとおりです。(敬省略)

特別功労章(一名)
財団法人兵庫県消防協会会長
伊丹市消防団
団 長 岸谷 義雄

表彰旗(一団)
上郡町消防団

竿頭綬(三団)
伊丹市消防団
宍粟市消防団
丹波市消防団

功績章(四三名)

- 神戸市中央消防団 団 長 土屋 雄司
- 神戸市兵庫消防団 団 長 高口 信喜
- 神戸市北消防団 副団長 藤井 弘
- 姫路市姫路西消防団 団 長 大塚 秀祐
- 姫路市飾磨消防団 副団長 大前 信行
- 姫路市網干消防団 副団長 西森 清孝
- 尼崎市消防団 副団長 島田 幸司
- 明石市消防団 分団長 荻野 賢治
- 西宮市消防団 分団長 奥村 浩
- 洲本市消防団 分団長 西田 元久
- 芦屋市消防団 分団長 田村 学
- 伊丹市消防団 部 長 内堀 喜史
- 相生市消防団 副団長 射延 敏昭
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 宮下 晃
- 豊岡市城崎消防団 副団長 中井 博文
- 加古川市消防団 副団長 樋口 満
- 赤穂市消防団 分団長 大崎 卓也
- 西脇市消防団 分団長 藤原 久和
- 宝塚市消防団 分団長 島田 康治
- 三木市消防団 副団長 山崎 大志
- 高砂市消防団 分団長 伊藤 定雄
- 川西市消防団 団 員 加藤 万豊
- 小野市消防団 分団長 松原 剛
- 三田市消防団 分団長 高槻 勝彦
- 加西市消防団 分団長 篠倉 幹雄
- 篠山市消防団 分団長 西山 芳彦
- 養父市消防団 副団長 沖田 正喜
- 丹波市消防団 副団長 井上 敏幸
- 南あわじ市消防団 副団長 大谷 毅
- 南あわじ市消防団 副団長 楮 大尚
- 朝来市消防団 副団長 嵯峨山秀喜
- 淡路市消防団 副団長 高橋 宏
- 宍粟市消防団 副団長 渡辺 達也
- たつの市消防団 分団長 眞島 茂博
- 加東市消防団 副団長 吉田 真人
- 猪名川町消防団 団 員 川上 栄治
- 多可町消防団 副団長 竹内 政彦
- 稲美町消防団 副分団長 田中 稔也
- 市川町消防団 団 長 田路 秀勢
- 太子町消防団 団 員 堂本 正広
- 上郡町消防団 団 員 大鳥 毅彦
- 佐用町消防団 副団長 梶本 正
- 香美町消防団 分団長 田中 公雄
- 精績章(一〇一名)
- 神戸市北消防団 分団長 小坂 郁雄
- 神戸市北消防団 分団長 辻 明男
- 神戸市北消防団 分団長 澤田 郁生
- 神戸市長田消防団 部 長 相馬 邦章
- 神戸市須磨消防団 班 長 岡田 治之
- 神戸市垂水消防団 副団長 蓼原 幸雄
- 神戸市西消防団 分団長 松村 正己
- 神戸市西消防団 団 員 吉川 典久
- 姫路市姫路西消防団 分団長 長澤 三吉
- 姫路市姫路西消防団 分団長 佐野 龍朗
- 姫路市姫路西消防団 分団長 阪永 正則
- 姫路市飾磨消防団 分団長 福島 茂
- 姫路市飾磨消防団 分団長 吉田 達生
- 姫路市網干消防団 副分団長 黒坂 健一
- 姫路市香寺町消防団 分団長 磯合 則敏
- 尼崎市消防団 分団長 田中 壽治
- 尼崎市消防団 分団長 村田 勝喜
- 明石市消防団 部 長 穂原富美春
- 明石市消防団 部 長 松原 洋一
- 西宮市消防団 分団長 山垣 房夫
- 西宮市消防団 副団長 西本 一弘
- 洲本市消防団 副団長 西田 泰典
- 洲本市消防団 分団長 楠 直樹
- 芦屋市消防団 班 長 西口 仁
- 伊丹市消防団 部 長 久保 貴司
- 相生市消防団 分団長 小西 一男
- 豊岡市豊岡消防団 分団長 中村 正義
- 豊岡市豊岡消防団 分団長 細田 優
- 豊岡市豊岡消防団 分団長 鞍留 眞司
- 豊岡市城崎消防団 分団長 田中 護
- 豊岡市城崎消防団 分団長 岸田 政則
- 加古川市消防団 分団長 宮永 卓郎
- 加古川市消防団 分団長 澁谷 勇
- 加古川市消防団 分団長 森田 秀明
- 赤穂市消防団 分団長 平井 久義
- 西脇市消防団 分団長 蛭田 恭史
- 西脇市消防団 副分団長 藤原 秀樹
- 宝塚市消防団 分団長 藤澤 勝巳
- 三木市消防団 団 員 木下 和也
- 三木市消防団 団 員 道風 貴弘
- 三木市消防団 副分団長 阿部 健司
- 高砂市消防団 副分団長 八田 克美
- 高砂市消防団 副分団長 中谷 勝也
- 川西市消防団 班 長 井上 善明
- 小野市消防団 副分団長 田中 孝和
- 小野市消防団 副分団長 河合 克己
- 三田市消防団 部 長 荻野 繁
- 三田市消防団 部 長 河北 亨
- 篠山市消防団 分団長 福西 正樹
- 篠山市消防団 分団長 小島 武志

平成二四年度 消防庁長官表彰

県下三消防機関一一六名が受章

平成二五年三月六日(水)、平成二四年度消防庁長官表彰式が、日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に執り行われました。

消防庁長官からの式辞に続き、長官から各受章者代表に表彰旗等が伝達されました。その後、日本消防協会理事長及び全国消防長会会長から祝辞、受章者代表者謝辞の後、閉会しました。

また、受章者の方々は午後から皇居を参観されました。

県下の受章機関、受章者は次のとおりです。
(敬称略・名簿順)

表彰旗 三団

- 豊岡市日出消防団
- 豊岡市日高消防団
- 姫路市香寺町消防団

功労章 九名

- 神戸市消防局 青木 啓司
- 消防監 西岡 保雄
- 消防監 早川 一隆
- 尼崎市消防局
- 消防監 西岡 保雄
- 消防監 早川 一隆

永年勤続功労章 一〇七名

- 宝塚市消防本部 石橋 豊
- 西宮市消防局 谷保 和成
- 神戸市消防局 外西 勝
- 伊丹市消防局 池本 光久
- 北はりま消防本部 井上 貞壽
- 神戸市消防局 井上 隆之
- 明石市消防本部 上園 正人
- 宝塚市消防本部 植村 富一
- 加古川市消防本部 萩野 篤彦
- 西宮市消防局 勝本 雄二
- 姫路市消防局 加茂 功人
- 西宮市消防局 川畑 真実

たつの市消防本部 消防司令長 合田 昌司	北はりま消防本部 消防司令長 坂本 睦男	北はりま消防本部 消防司令長 高瀬 正雄	北はりま消防本部 消防司令長 爲廣 高志	川西市消防本部 消防司令長 西田 孝宏	明石市消防本部 消防司令長 長谷川 健	加古川市消防本部 消防司令長 東田 保則	伊丹市消防局 消防司令長 福元 利昭	尼崎市消防局 消防司令長 和田 公秀	姫路市消防局 消防司令 荒木 晃	姫路市消防局 消防司令 井奥 正幸	神戸市消防局 消防司令 井口 潔	猪名川町消防本部 消防司令 上殿 孝弘	佐用町消防本部 消防司令 大林 光生	丹波市消防本部 消防司令 衣川 祥民	高砂市消防本部 消防司令 木村 勝彦	豊岡市消防本部 消防司令 小崎富士夫	六栗市消防本部 消防司令 小畑 雅臣	芦屋市消防本部 消防司令 小林 照信	尼崎市消防局 消防司令 鈴木 芳美	朝来市消防本部 消防司令 長石 稔	姫路市消防局 消防司令 長塩 久義	養父市消防本部 消防司令 中田 秀泰	美方広域消防本部 消防司令 中野 肇	赤穂市消防本部 消防司令 那波 英樹	神戸市消防局 消防司令 畑田 猛	三田市消防本部 消防司令 平阪 義弘	小野市消防本部 消防司令 藤本 定幸	淡路広域消防事務組合 消防本部	神戸市消防局 消防司令 堀 忠一	相生市消防本部 消防司令 松下 利宗	豊岡市消防本部 消防司令 宮口 俊彦	神戸市消防局 消防司令 宮武 靖	三木市消防本部 消防司令 山内 清孝	篠山市消防本部 消防司令 雪岡 達也	神戸市消防局 消防司令 浅利 修二	神戸市消防局 消防司令 井上 周二	神戸市消防局 消防司令 立垣 康夫	神戸市消防局 消防司令 西山 恒美	神戸市消防局 消防司令 福羅 修二	神戸市消防局 消防司令 前田 昭弘	神戸市消防局 消防司令 松本 靖夫	神戸市消防局 消防司令 山本 勝彦	神戸市西消防団 団長 穴田 泰久	丹波市消防団 副団長 大石 和之	神戸市兵庫消防団 副団長 大崎 文雄	淡路市消防団 副団長 納 清文	淡路市消防団 副団長 織田 崇志	伊丹市消防団 副団長 久保 善一	洲本市消防団 副団長 小嶋 康司	加東市消防団 副団長 小松志津雄	篠山市消防団 副団長 澤 光吉	神戸市中央消防団 副団長 白銀 敏孝	篠山市消防団 副団長 田畑 幸生	芦屋市消防団 副団長 天王寺谷隆	小野市消防団 副団長 内藤 泰之	養父市消防団 副団長 中島 英幸	姫路市夢前町消防団 副団長 林 正明	加古川市消防団 副団長 樋口 満	姫路市姫路西消防団 副団長 福島 邦昭	養父市消防団 副団長 藤原 睦幸	朝来市消防団 副団長 増田 博	豊岡市豊岡消防団 副団長 松井 勝己	新温泉町消防団 副団長 松上 鉄雄	淡路市消防団 副団長 森 幸好	六栗市消防団 副団長 安原 勝則	たつの市消防団 副団長 山田 好則	神戸市北消防団 副団長 米澤 正実	豊岡市竹野消防団 副団長 井原和四郎	猪名川町消防団 副団長 上田 隆	養父市消防団 副団長 上田 英和	赤穂市消防団 分団長 大崎 卓也	加古川市消防団 分団長 小原 徹	尼崎市消防団 分団長 栗山 茂	姫路市飾磨消防団 分団長 小西 治	相生市消防団 分団長 小西 一男	宝塚市消防団 分団長 小西 昌治	相生市消防団 分団長 齋藤 謙二	尼崎市消防団 分団長 島村 建一	香美町消防団 分団長 清水 容和	姫路市姫路東消防団 分団長 新見 利夫	高砂市消防団 分団長 高原 久人	高砂市消防団 分団長 高安 剛輝	三田市消防団 分団長 辻本 實	明石市消防団 分団長 橋本 敏光	西宮市消防団 分団長 原田 明	新温泉町消防団 分団長 前谷 斉	尼崎市消防団 分団長 松井 俊也	西宮市消防団 分団長 本山二三	赤穂市消防団 分団長 森元 正直	香美町消防団 分団長 渡邊 孝	川西市消防団 副分団長 庄田 徳男	三木市消防団 副分団長 池町 英克	太子町消防団 副分団長 大西 康	川西市消防団 副分団長 吉井 明
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------	----------------------	---------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------	---------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	-----------------------	--------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	-----------------------	---------------------	------------------------	---------------------	--------------------	-----------------------	----------------------	--------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	------------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	--------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------

表彰式に出席されたみなさん



震災を語り継ぐ ひょうご安全の日のつどい開催

阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを推進するため、平成二五年一月一七日(木)、ひょうご安全の日のつどいが開催され、「一・一七ひょうごメモリアルウォーク二〇一三」「一・一七のつどい」「交流ひろば・ステージ」「防災訓練」が行われました。

阪神・淡路大震災から一八周年を迎える一月一七日(木)に、交通機関が途絶した大震災時の追体験を行い、風化しがちな防災意識を新たにするとともに、来るべき災害に備えるため、震災モニュメント巡りや緊急時の避難路、救援路として整備されている山手幹線等を歩く「一・一七ひょうごメモリアルウォーク」などの事業が行われました。

総勢三、二〇〇人の参加者が、震災当時に思いを馳せ、それぞれ東西二五キロメートル(東・西宮市役所、西・須磨海浜公園)、一〇キロメートル(東・芦屋市川西運動場、西・県立文化体育館)、西五キロメートル(神戸市立中央体育館)、東二キロメートル(王子公園)の六カ所から、「一・一七のつどい」などが開催されるHAT神戸を目指して歩きました。



交流ステージの様子

② 一・一七のつどい

阪神・淡路大震災の犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を国内外や次世代に発信する「一・一七のつどい」がHAT神戸(人と防災未来センター)慰霊のモニュメント前で開催されました。

二、〇〇〇人も参加者が犠牲となられた方々へ追悼の誠を捧げられました。県消防協会からは岸谷会長が「つどい」に出席し、献花を行いました。

次第

- ・ 献奏曲
- ・ 開会のことば
- ・ 主催者代表挨拶
- ・ 県民のことば
- ・ 献奏曲
- ・ 一・一七のつどい
- ・ 安全の日宣言
- ・ 献花

③ 交流広場・交流ステージ

なぎさ公園では、関係機関やNPO、ボランティアグループ等がブースを設置し、活動展示や炊き出しを行い、県民の防災意識の向上や交流を図ったほか、今回新たに津波対策スクエアが設けられ、津波対策関連用品の展示や防災用品の展示・体験が行われました。

また、交流ステージでは、防災クイズやトークセッションが行われたほか、高石ともやさんや川嶋あいさんらのミニライブが行われ、参加者の多くが震災を思い出し、防災・減災の必要性を再認識する機会となりました。

④ 防災訓練

海上での要救助者訓練や要救助者搬送訓練、物資搬送訓練が行われたほか、ロープワーク訓練や大声コンテストなど県民参加による防災機関と連携した実践的な「防災訓練」が行われました。

神戸知事コメント

震災一八年を迎えて

阪神・淡路大震災から一八年を迎えます。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様の復興に向けたご努力に敬意を表します。

東日本大震災の発生以来、今こそ私たちの震災の経験と教訓を生かさねばならないと、多くの県民や団体、企業が被災者に寄り添い、支えとなってきました。

県も震災直後から支援活動を展開し、復旧復興期を迎えた今は、震災を経験した専門家の協力を得ながら、復興まちづくり、コミュニティの再生、こころのケアを中心に取り組んでいます。また、被災自治体の復興事業を支えるため、任期付県職員の採用など職員の中長期派遣を拡充しています。

被災地の地域再生、被災者の生活再建は緒に付いたばかりです。これからも私たちの経験を東北へつないでいきます。

東日本大震災の教訓も踏まえ、南海トラフ巨大地震への対策をハード・ソフト両面から計画的に講じていかなければなりません。今年はそのスタートの年です。

ハード対策の基本となるのは、近く策定する「津波防災インフラ整備五箇年計画」です。発生頻度の高い津波に対しては、防潮堤の整備をはじめとした防御対策を取ります。また、最大クラスの津波による越流に備え、防潮堤基礎部の補強など強化対策を進めます。

ソフト対策としては、「みんなで逃げよう」減災防災運動を展開します。危険箇所を確認しながら避難路を逃げる訓練、要援護者の支援体制づくりなど、地域ぐるみで安全に避難するための県民運動です。そのためにも、避難路のカラー舗装、避難ビルの指定等を進めます。

こうした県独自の取組みに加え、関西広域連合において「関西広域応援・受援実施要綱」を定め、災害時における関係機関のスムーズな連携を図ります。

再来年は震災二〇年の節目の年。震災の教訓が地域に根づいているのか、問われているのではないでしょう。か。「自助」「共助」「公助」それぞれが機能し、総合力を高めてこそ、災害に強い地域になります。

震災二〇年に向け、「伝える・備える」災害文化の定着に一層の力を注ぎ、だれもが安全安心に暮らせる兵庫づくりに取り組んでいきます。



18年を迎えて

一・一七ひょうご安全の日宣言

阪神・淡路大震災から一八年が経った私たちは日本と世界の多くの人たちに地震を経験する前に教訓を知ってもらいたい、使ってもらいたい、そのように願って発信し続けてきた

災害は姿を変えて 私たちと社会を突然襲う東日本大震災もそうだった 巨大な地震と津波は 私たちに恐怖をもたらした 多くの被災者と傷ついたコミュニティそして荒ぶる国土を残して去った

一万九千名に及ぶ犠牲者 そのうち二千七百名は 行方不明のまままだ 続いて起こった原子力発電所の事故では いまだに多くの住民が ふるさとを追われたままだ

阪神・淡路大震災から 一〇〇回を超える被害地震が起こった もう災害は 起こらないで欲しい でも 南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生も心配だ 起れば未曾有の被害をもたすが その対策に時間がかかり 財源も必要だ

でも 一歩ずつ前進したい 減災の考えで 次なる災害に備えたい それには災害文化をつくり 伝え そして備えて行動するしかない

伝えよう もっと伝えよう 阪神・淡路大震災の教訓を 震災の教訓はすべての災害に通じる知恵だから

二〇一三年一月一七日

ひょうご安全の日推進県民会議



防災訓練の様子

1.17ひょうごメモリアルウォーク2013



平成二五年 伊丹市消防出初式開催!

一、五〇〇名の園児達も元気に行進!

(財)兵庫県消防協会事務局

平成二五年一月一二日(土)一〇時〇〇分から昆陽池公園多目的広場において、平成二五年伊丹市消防出初式が開催されました。

寒空の下、屋外での開催でしたが、朝早くからたくさんの方が参加し、盛大かつ賑やかに執り行われました。

第一部の式典では、厳かな雰囲気の中、消防団員、防火管理優良事業所、優良幼年消防クラブに対する表彰が行われました。

式典に引き続き第二部では、消防職団員・自主防災会・幼年消防クラブなど、総勢二、〇〇〇名以上の参加者

による盛大な観閲行進の後、幼年消防クラブの演技、自主防災会の方々による救出救護及び初期消火訓練、そして消防職員による店舗付住宅火災を想定した、消火救出訓練が行われました。

一、五〇〇名以上の幼年消防クラブの園児たちによる、拍子木を打ちながらの行進

や、一生懸命な演技には、観者の皆さんの顔にも思わず笑みがこぼれていました。また、自主防災会の皆さんの訓練披露は、地域で共に支え合うことの大切さや、地域と行

政との連携の大切さが参観者へ伝わるものでした。そして、消防職員による鮮やかな訓練披露は、参観者へ「安心」と「信頼」がもたらされたいと思います。

最後に昆陽池の貯水池において、ポンプ車やはしご車からの一斉放水が行われ、平成二五年伊丹市消防出初式は終了しました。

「備えあれば憂いなし」と言いますが、出初式を参観することで、多くの市民に防災意識の高揚と日頃の準備の重要性を再認識する良い機会になったのではないのでしょうか。



巡閲



表彰式



伊丹市のマスコット「たみまる」



巡閲



幼年消防クラブ



35m級先端屈折式はしご車(平成24年11月導入)



消防職員による訓練

消防団でミックアップ

『平成二五年 洲本市消防団出初式を 挙行しました』 洲本市消防団

新春恒例の洲本市消防団出初式が平成二五年一月六日(日)に挙行され、来賓や消防団員が七三〇名出席しました。その模様をお知らせします。

午前九時から洲本市文化体育館文化ホールで式典が行われました。式典は、各分団長による「人員報告」「開式のことば」「国歌斉唱」「殉職消防団員への黙祷」「団長あいさつ」と進み、小川宏行団長が「消防団が住民の期待に

に備えた取組みは重要である。地域に密着し、豊富な知識と機動力を有する消防団の存在は、ますます重要となっております。今後も自主防災組織と一体となって防災訓練の実施や減災に向けた取組みの強化を切にお願いしたい」と述べました。その後、小川団長の「宣誓」「表彰状及び感謝状授与」と進みました。消防庁長官表彰、日本消防協会長表彰、兵庫県知事表彰、兵庫県消防協会会長表彰の受章者が紹介された後、竹内市長から市長特別表彰受章者一名、市長表彰受章者二五名、市長感謝状四名の代表受領者に、小川団長から団長表彰受章者二五名、団長感謝状六八名の代表受領者に表彰状又は感謝状が授与されました。表彰状及び感謝状授与の後、「来賓祝辞」「来賓紹介」「祝電披露」と進み、向山淡路消防保

安協会長の発声による「火の用心三唱」「閉式のことば」で式典は閉会となりました。



色鮮やかな一斉放水

應えていくためには、災害時よりもより、平時から団員各位が、地域社会に溶け込んだ存在であり、また、地域住民から信頼される組織であることが重要である。先人達が築き上げた偉大な歴史と伝統を継承するとともに、新時代に即した魅力ある消防団を築こう」と力強く訓示しました。

続いて、「市長式辞」では竹内通弘市長が「近い将来に東南海・南海地震の発生が危惧されるなど、常に災害の発生

式典終了後、指揮広報車を先頭に、一六台の消防車両へそれぞれ旗手が乗車し、一斉放水会場である洲本港までパレードを行いました。

洲本港に到着後、小型ポンプ一六台を使用した一斉放水が行われました。関係者などが見守る中、市長及び団長による観閲及び挨拶の後、岸壁から放たれた赤や青、黄色に彩られた水しぶきが新春の空にアーチを描き、団員らは市民の安全を守る士気を高めました。

『国宝太山寺消防訓練について』

神戸市西消防団伊川谷支団

兵庫県内には、国宝と呼ばれる、建造物が六箇所、一件あります。

姫路市の「姫路城」、加古川市の「鶴林寺」、神戸市の「太山寺」などです。私達、伊川谷支団の管轄区域にはその中の一つであり、兵庫の森・百選にも選ばれた原生林に囲まれた「太山寺」が存在しています。

「太山寺」は、天台宗の流れをくみ、七一六年(霊龜二年)に建立されました。同じ敷地の中には仁王門(重要文化財)、三重塔(県指定文化財)、阿弥陀堂、奥の院があ

り、周辺には五ヶ坊と呼ばれる、安養院、観喜院、成就院、遍照院、龍象院が点在しております。

文化財防火デーの消防訓練では、火災などの災害から守るため、それぞれの組織が効率よく行動できるように、神戸市西消防署、地域の自治会を中心とした防災福祉コミュニティ、西消防団伊川谷支団が合同で訓練を行います。

今年(平成二五年)は、一月二七日(日)に実施。西消防署員の指導のもと、伊川谷支団からは、積載車三台、小型動力ポンプ三台、人員三〇

名が参加しました。

二日間続いた寒風が嘘のように収まり、穏やかな日差しではありましたが、それでも気温はマイナス二度。静けさと緊張感につつまれながら、予定どおり訓練を開始。境内の横を流れる伊川と、薄らと表面が凍った本堂前の池から取水し、狭い境内にホースを延長しながら、重ならないように上手く捌き、放水位置の確認。動力ポンプの音が大きく響きわたる中、指揮者から「放水開始!」の号令で、一斉に放水しました。

昨年、消防団安全対策設備整備補助事業で配置されたトランシーバーを活用し、筒先とポンプ側で連絡を取りあい、圧力の調整を行いました。

訓練終了後には、消防署長から講評をいただき、また区長からも労いの言葉をかけていただき、訓練を終えた達成感と感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございました。

今後、このような訓練を通して、国宝文化財だけではなく、地域を守るように、意識を高め、更なる鍛錬に積み、地元との連携強化を進めてまいりたいと思います。



一斉放水

女性消防団員リーダー会議

『財』日本消防協会にて開催! 兵庫県より川西市消防団分団長木村君代さんが参加

平成二四年一月一四日(金)日本消防協会にて女性消防団員リーダー会議が開催されました。

近年、消防団を取り巻く環境の変化から、地域防災の要である消防団員が減少し、地域防災力の低下が懸念されている中、女性消防団員は毎年増加し、また、地域住民や防災関係者から大きく期待されており、副団長や分団長等の

幹部として活躍する女性団員も増えていきます。

これらの状況を踏まえ、女性消防団員の中でリーダーとして活動している団員が日頃の活動上の課題や問題点などについて情報・意見交換し、今後の消防団活動のより一層の充実に資することを目的として女性消防団員リーダー会議が開催されました。

この会議の構成メンバー

は、日本消防協会より指定された府県から推薦された、部長以上の階級にある団員一八名と、消防有識者、日本消防協会消防団員確保対策委員会委員です。

この度の会議に当県より参加した川西市消防団分団長木村君代さんから、会議参加後に感想文をいただきましたのでご紹介いたします。

なお、今年度の女性消防団員リーダー会議参加府県は次

青森県・秋田県・山形県・埼玉県・群馬県・栃木県・山梨県・長野県・福井県・富山県・三重県・京都府・兵庫県・鳥取県・長崎県・福岡県・熊本県・鹿児島県

『平成二四年度 女性消防団員リーダー会議に参加して』

川西市消防団第二分団 分団長 木村 君代

一月一四日、東京の本消防会館で開催された平成二四年度女性消防団員リーダー会議に参加させていただきました。

会議の間は二時間半と短いものでしたが、三つの問題点をテーマに各県の代表者が活発な意見を述べ、主催者の方も有意義な会議になったと言われていました。

今回の会議で感じたことは、資料を見たり様々な意見を聞くことにより、他府県の女性団員も頑張っていることや、男性団員同様に火災現場で消火活動を行う消防団があること、そして驚いたことは、独身であることが入団の条件になっている消防団があ

ることでした。

各地の女性団員の活動は様々で、独自の活動をしているところもあれば、男性団員と共同で活動されているところもあります。また、女性団員としての役割や、どのような活動をしたらいのかを悩まれているところも多くあり、このことは多くの女性団員のかかえる共通の課題ではないかと思いました。

しかし、女性団員は男性団員にない女性ならではのソフト面や視点を生かして活動することを目指すとして結成されたところが多く、有識者の方の話でも女性らしいところを生かして欲しいと言われたように、女性団員はこのことを基本とし、消防団活動に取り

組めば良いのではとの共通の意見でした。

全国の消防団員数は、男性団員は減少傾向にありませんが、女性団員は増加傾向にあります。今回の会議で、女性団員は、防災関係者からも期待されていることや、消防団員確保対策委員会が設置されたことなどを聞き、私たちの置かれている立場を理解し、今後ますます充実した活動をしなればと感じました。また、今回の参加者の中には六〇歳後半の団員が二名おられ、私もまだまだ女性団員として消防団活動にがんばろうと気合を入れ帰ってきました。



わが町の団長さん

「頼もしい団長」

市川町消防団長

田路 秀勢



市川町は、兵庫県の中央部からやや南西部に位置し、町の中央部を町名の由来となっている清流・市川が流れる伝統と緑豊かな町です。

田路団長は、平成七年四月に入団以降、持ち前の正義感と熱意で班長・部長と歴任され、平成二〇年四月には副団長に、平成二四年四月には第二九代団長に就任され、現在二六分団、六〇〇名の団員の先頭に立ち、地域の安全と安心を守るため日夜努力されています。

団長就任二年目となる今年も一貫して住民の方々の生命、財産を守るため、一生懸命頑張っておられます。

日頃の団長は、規律に厳しい反面、団員への気配りも人一倍細やかで、その人柄は、団員はもとより団幹部からも厚い信頼があります。

そんな団長は、いざ災害が発生するとすばやく現場に駆けつけ、情報収集をすることにも先頭に立って防衛体制を整えるなど、地域住民が安心して暮らせるよう常にリーダーシップを発揮して頑張っておられます。

また、市川町消防団の重点目標を「地元住民と歩み愛される消防団」として地元自治会と合同で消火訓練を行うなど、地域住民に密着し信頼される消防団を積極的に展開されています。

「自らの郷土は 自らを守る」

小野市消防団長

石田 貢



小野市は、北播磨地域の南方に位置し、古くから、それほど家庭用刃物の生産地として順調な発展を遂げてきました。本市は、主要幹線道路の整備や新都市建設などを契機に、北播磨の中心都市として一層の飛躍を遂げようとしています。

石田団長率いる小野市消防団は、六分団、団員数六九七名(条例定数七〇〇名)で構成され、ポンプ自動車五台、小型動力ポンプ積載車四八台で、「自らの郷土は自らで守る」の郷土愛護の精神に基づき、日夜、防災に努めています。

平成一三年には、北播磨地域で初めての女性分団(サンフラワーズ一八九)を結成、消防団の活性化を促し、地域

住民へも、女性らしい優しさと細やかな配慮を活かし、各地域で活躍しています。

石田団長は、昭和五七年に入団以来、分団長・副団長を歴任され、平成二四年四月に第七代目の団長に就任されました。副団長時には、地域のライオンズクラブの会長も併任され、地域の発展と活性化に尽くされました。

団長は、消防団の団結と誇りを重要視されており、特に規律を重んじ、時には厳しい言葉を掛けられますが、反面、幹部・団員への人一倍の細やかな気配りで厚い信頼を寄せられております。

また、団長は、地域防災にも力を入れておられ、地域住民の皆さんとのコミュニケーションを大切に、団員にも、日頃からコミュニケーションの重要性を説いておられ、消防団と地域住民の皆さんとの合同防災訓練の際には、自ら先頭に立って活動されています。

これからも、地域防災のリーダーとして、小野市民の安心と安全を守り、より一層、市民から信頼される消防団へと導いてくださることを期待しております。



われら 若手消防団員

消防団員として

西脇市消防団 第五分団 比延部 鈴木 和博



ポンプ車操法頑張ります!

私が在籍している西脇市消防団第五分団比延部は、代々消防団活動が活発であり、団員一人一人の防災に対する意識も非常に高く、良き伝統を大切にしています。

私自身、昨年の四月より新入団員として活動を行ってきましたが、無知の立場でありながらも、この約一年の間でそう実感しました。

私の父も過去に消防団員として活動を行っており、幼少の頃から消防団員の背中を見ながら育ってきました。そういったことから、入団を決意したのも父の影響が主にあると思います。

この一年間、消防団員として活動を行ってきたことで、自分自身の防災に対する意識の変化、又地域行事に参加することで人と人との繋がりを実感す

ることができました。

私は、やはり地域の方々のご協力があり、支えていただいているからこそ私達消防団員の意識の向上に繋がっており、地域防災の実現に直結するのだと思います。

また、消防団員の年齢層は様々ですが、その中でも訓練等は勿論、ポンプ車操法などを通して、同じ目的、目標に向かって取り組むことで、部内の活性化、そして何よりも自分自身の成長に繋がっており、非常に良い経験させていただいていると実感しています。

今後、代々築き上げてこられた良き伝統を守り、地域の方々の安全と安心を確立する為に、消防団活動に日々精進して参りたいと思います。

がんばってます、女性消防団員

『できることからコツコツと』

三田市消防団

「三田ファイヤーレディーズ」

岡部 純佳



三田市女性消防団は昨年一月に発足し、早一年が経ちました。団員は学生から主婦まで幅広い年齢の人達が集まっております。現在予備団員を含め、一名の個性的なメンバーが各々の持ち味を生かしながら活動しています。

「三田ファイヤーレディーズ」という愛称で、夏祭りでは盆踊りをしたり、駅前ではティッシュ配りをしたりし

て、防火を呼びかけました。様々なことにチャレンジしながら市民の皆さんに親しんでもらえるよう頑張っています。

この一年間は、応急手当普及員と消防訓練指導員の資格を取り、消防職員の方と一緒に市内の学校や企業など様々の所に出向き、主に CPR 講習や消防訓練指導を行いました。始めは何も分からない状態で不安でしたが、消防職員の方たちが優しく教えてくださり、今はアットホームな状態で安心して活動できます。普段、学生の私にとって、市民の方たちと関わる機会は、とても貴重で楽しんで活動しています。

一昨年の東日本大震災を受けて、命の大切さを改めて感じた人が多いと思います。消

防団員という立場で自分だけでなく、多くの人に他人の命を救う方法を知ってもらえるよう、努力していきたいです。そのために、まずはみんなが楽しめる「 CPR 体操」を考え、これを広める事を目標にできることからコツコツと頑張っています。



三田まつりでの盆踊り大会に参加 アイデア賞受賞!!

地域のお知らせ

姫路市夢前町

「夢のあるまち」



夢前川の桜並木

姫路市夢前町は平成一八年三月に姫路市に合併し、市北部に位置する南北二五キロメートル、東西一〇キロメートルで人口二二、〇〇〇人余りのまちです。全国で唯一「夢」の文字を用いた地名であり、「夢のあるまち」をキャッチフレーズにしています。

自然と歴史豊かな夢前町には、雪彦峰山県立自然公園、古くからひらけた塩田温泉、夢前川の清流などがあり、四季折々に趣きがあるまちです。

歴史文化としては、国指定の重要文化財等を所蔵する弥勒寺、国史跡では、播磨最大の山城といわれる置塩城跡などがあります。

夏、澄み渡る夢前川は鮎狩りを始め、アウトドア派には絶好の遊び場です。幻想的に飛び交うホタルを観賞、夏山登山での森林浴も見逃せません。麓にはキャンプ場、コテージなどレジャー施設も充実しています。イベントでは、夜空を彩る花火大会「夢さきふるさとまつり」が毎年開催されます。

秋、山々が紅葉に色づく好季節、伝統的な秋祭りが行われ、獅子舞や勇ましい屋台練りが繰り出されます。

冬、雪彦山が薄っすらと雪化粧を始めると本格的な冬の訪れで、温泉で仲間と一緒に名物の牡丹鍋を囲めば、心も体も温まることでしょう。

また、交通面では、平成二七年一〇月に供用開始となる中国縦貫自動車道の夢前スマートIC（仮称）が完成すれば、市北部へのアクセスも大変便利になります。姫路市へお越しの際は少し足を延ばして夢前町にお越しください、自然を満喫していただきたいと思えます。



日本三彦山「雪彦山」



秋祭りの勇壮な屋台

「たかさご万灯祭」は平成一八年九月に、高砂市高砂町に指定されたのをきっかけに、平成一九年から始まったイベントです。平成一八年の一〇月に、「たかさご万灯祭」の前身となる「高砂みなと堀川まつり」が、高砂市観光協会の主催で開催され、翌年より兵庫県、高砂市、高砂商工会議所、高砂市観光協会、市内企業及び各種団体による、たかさご万灯祭実行委



願いの灯り会場

たかさご万灯祭

「一年に一度、星が降りてくる街へ…」

高砂市

員会が結成され、現在の「たかさご万灯祭」を開催しています。

イベントの内容は、碁盤の目のような高砂町の街並みを約六キロメートルにわたり幻想的なローソクの灯りを灯す【路地キャンドル】高砂町内の歴史的な三連蔵など八箇所【建物ライトアップ】堀川の水辺に乱反射するオブジェやヨットの灯りが美しい（水の灯り会場）高砂神社境内のさ



水の灯り会場

まさまな灯りに包まれながら「一灯来福・一灯来縁」を祈願する（願いの灯り会場）幅広い年齢層の市民が作った、LEDやライトを駆使したオブジェが並ぶ（未来の灯り会場）の【三つの灯りの会場】が来場者を幻想的な世界へと誘います。灯りのイベントは数々ありますが、音楽と灯りを一緒にしているのは「たかさご万灯祭」だけです。キャ

がイベント会場になる二日間です。当初、二日間で約一万人程度の観客で開催されましたが、六年目を向かえ、二日間で約七万人の方々が観覧に来ていただけるイベントとなりました。今年も九月一四日（土）一五日（日）の二日間開催されますので、高砂市で幻想的なひとときを過ごしてみたい方が多いでしょう。

ンドルが揺れる中、一二箇所のジャズギヤラリーから聴こえてくるジャズの音と秋の夜にそよぐ風、灯りと音とまちがひとつになって「たかさご万灯祭」は流れていきます。

地元の物産品が集まる【高砂楽市】、【各種展示会】及び【古民家の開放】など、町中

編集後記

寒さも和らぎ、日増しに春らしくなってきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今月号についても各地区から多数寄稿いただき、ありがとうございます。また、突撃取材として伊丹市消防出初式に伺い、年初の盛大な催しを記事として掲載しております。取材にご協力いただいた関係者の皆さまありがとうございました。

今月号で平成二四年度分の兵庫消防は最終号となります。これまでの皆様方からの多数のご寄稿、ご愛読に対し、厚くお礼申し上げます。

来年度から消防協会は公益財団法人に移行する予定です。「兵庫消防」は今後も継続し発行して参りますので、ご愛顧のほどよろしくお願ひします。